

研究結果

本研究は、日本と韓国の代表的な漂泊詩人である芭蕉と金笠の「漂泊の過程」、「漂泊と時代相」、「漂泊の態度」などの観点から両者を比較し、考察したものである。芭蕉と金笠は、国籍、時代、文学の形態などは異なるものの、漂泊の中で生涯の後半を過ごし、漂泊の途中に他郷で客死したこと、漂泊の中で幾多の秀句を産み出したと云った共通点が見られる。

彼らは漂泊を通じて大自然を観照し、自然と融合した漂泊詩人であり、大自然の中の歌枕・古歌・故事に縁がある土地を直接訪ね、漂泊者の詩心を吟味したのである。また、人生を旅人、百年過客であると詠いながら、孤独な放浪者としてではなく、漂泊者として自然を観照し、詩を詠ずる詩人であった。

しかしながら、芭蕉は漂泊を通して感じられた自然を、芸術至上主義的な観点から描いているが、一方では、金笠は漂泊を通じて目撃した社会的な矛盾と疲弊感を事実として描いており、現実の政治と社会的な矛盾を批判している。さらに、芭蕉は、文芸の創作のための漂泊であった為、困窮、孤独などに対する不満があってもそれを口にすることはなかったが、金笠の場合は、自己のあり方や生活について深く悩み、生活の困難さを吐露している。

このような相違点があったとしても、本研究の本来の目的は、彼らが、漂泊の後、自分達が観照した自然の哲理を自分達の文芸作品に導入し、独自の作風を創出したのかどうかを追求することであった。従って、漂泊と詩歌との関連性やお互いの影響力をひとつのモデルとして提示することにより、漂泊で受容した思想が、詩人の文芸創作意欲や制作心理にどのような影響を与え、且つ、どのような過程を経て新しい文芸に昇華できたのかを、詩人や思想の研究者達に理解してもらえらるであろうことが、期待される成果である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

芭蕉와 金笠의 比較研究 - 漂泊을 中心으로 -

朴馥遠

韓国 日本近代学会

2010年 5月 29日～30日

慶州教育文化會館

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

芭蕉와 金笠의 比較研究 - 漂泊을 中心으로 -

朴馥遠

日本近代学 研究 第30輯

2010.11.30

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)